

2019年3月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2018年11月1日

上場会社名 積水化成工業株式会社 上場取引所 東
 コード番号 4228 URL <http://www.sekisuiplastics.co.jp/>
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 柏原 正人
 問合せ先責任者 (役職名) 取締役常務執行役員 コーポレート戦略本部長 (氏名) 佐々木 勝巳 TEL 03-3347-9618
 四半期報告書提出予定日 2018年11月13日 配当支払開始予定日 2018年12月5日
 四半期決算補足説明資料作成の有無：有
 四半期決算説明会開催の有無：有（証券会社アナリスト、機関投資家ファンドマネージャー）

（百万円未満切捨て）

1. 2019年3月期第2四半期の連結業績（2018年4月1日～2018年9月30日）
（1）連結経営成績（累計）

（％表示は、対前年同四半期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2019年3月期第2四半期	54,570	△0.2	1,918	△29.7	1,947	△28.7	1,315	△26.7
2018年3月期第2四半期	54,701	12.3	2,728	14.1	2,732	32.7	1,794	36.0

（注）包括利益 2019年3月期第2四半期 1,115百万円（△64.0％） 2018年3月期第2四半期 3,102百万円（99.7％）

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2019年3月期第2四半期	29.05	—
2018年3月期第2四半期	39.14	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2019年3月期第2四半期	132,499	66,521	49.7
2018年3月期	131,148	66,145	49.9

（参考）自己資本 2019年3月期第2四半期 65,836百万円 2018年3月期 65,414百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2018年3月期	—	12.00	—	15.00	27.00
2019年3月期	—	13.00			
2019年3月期（予想）			—	17.00	30.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2019年3月期の連結業績予想（2018年4月1日～2019年3月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	115,000	2.6	5,500	4.1	5,400	4.8	3,600	4.4	79.48

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：有
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2019年3月期2Q	46,988,109株	2018年3月期	46,988,109株
② 期末自己株式数	2019年3月期2Q	1,696,517株	2018年3月期	1,696,143株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2019年3月期2Q	45,291,761株	2018年3月期2Q	45,860,569株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

（日付の表示方法の変更）

「2019年3月期 第1四半期決算短信」より日付の表示方法を和暦表示から西暦表示に変更しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 四半期連結貸借対照表	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	6
四半期連結損益計算書	
第2四半期連結累計期間	6
四半期連結包括利益計算書	
第2四半期連結累計期間	7
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	8
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	9
(継続企業の前提に関する注記)	9
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	9
(会計方針の変更)	9
(追加情報)	9
(セグメント情報等)	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(2018年4月1日から2018年9月30日)の世界経済は、欧米を中心に総じて景気回復傾向が続いているものの、世界的な貿易摩擦の強まりに伴う輸出環境への懸念などから先行き不透明感が強まっています。日本経済は、個人消費の持ち直しなど緩やかな回復基調が持続していますが、西日本豪雨をはじめとした相次ぐ自然災害の影響がありました。日本の発泡プラスチック業界におきましては、原油価格が当年度に入り上昇を続け、原燃料価格や物流コストが値上がりする一方で、川下に対しては価格調整に時間を要する状況となっており、収益面で厳しい経営環境となりました。

このような経営環境のなか、当社グループは2016年度からの3カ年中期経営計画「Make Innovations 60」の最終年度を迎え、「事業ポートフォリオ変革」と「収益構造革新」を進めるべく、施策を着実に推進しております。当第2四半期連結累計期間は、自動車、医療・健康関連を中心に工業分野の伸長は続いています。家電・IT関連では前年同期に好調であった台湾での需要が一巡となりました。一方、生活分野では自然災害により主に農水産関連などの収益に影響があったことに加え、原燃料価格などの上昇に対し、製品価格の改定が遅れ、収益が悪化しました。その結果、売上高は545億7千万円(前年同期比0.2%の減少)、営業利益は19億1千8百万円(前年同期比29.7%の減少)、経常利益は19億4千7百万円(前年同期比28.7%の減少)、親会社株主に帰属する四半期純利益は13億1千5百万円(前年同期比26.7%の減少)となりました。なお、自然災害の影響として、特別損失3千1百万円を計上しております。

以下、各セグメントの業績は次のとおりであります。

<生活分野>

生活分野の売上高は310億9千万円(前年同期比3.3%の減少)、セグメント利益は12億9百万円(前年同期比37.7%の減少)となりました。

食品容器関連は電子レンジ加熱に対応した耐熱容器などの需要が引き続き好調となりましたが、7月以降相次ぐ自然災害の影響を受け、農水産関連の需要は低迷し、建材・土木関連の需要も低調に推移しました。

また、関連仕入商品の販売減もあり前年同期比減収要因となりました。

主力製品では、「エスレンシート」(発泡ポリスチレンシート)は売上数量・金額とも前年同期を上回りましたが、「エスレンビーズ」(発泡性ポリスチレンビーズ)は売上金額が前年同期を上回ったものの、数量は前年同期を下回りました。売上単価は製品価格の改定により、ともに前年同期を上回りましたが、原燃料価格の上昇に対し価格改定に時期ずれが生じ、収益が悪化しました。

開発品では、土木関連資材の樹脂製雨水貯留浸透構造部材「アクアロード」に注力しています。「アクアロード」はゲリラ豪雨の冠水対策として、車道の下にも適応可能な部材で、道の駅の駐車場や宅地造成内の道路に採用されました。雨水貯留の性能に加えて、輸送・保管時の収納性や施工性がよい特長を活かして、国・地方公共団体等に積極的に展開・拡販しています。

<工業分野>

工業分野の売上高は234億8千万円(前年同期比4.1%の増加)、セグメント利益は11億2百万円(前年同期比25.7%の減少)となりました。

家電・IT関連では、「ピオセラン」(ポリスチレン・ポリオレフィン複合樹脂発泡体)などを用いた液晶パネル搬送資材用途において、前年同期に好調であった台湾での需要が一巡となりました。「テクポリマー」(有機微粒子ポリマー)は、一部数量的には在庫調整の影響を受けましたが、光拡散用途や塗料用途において堅調に推移しました。自動車関連では、「ピオセラン」などを用いた部材用途において、グローバルに採用部位が拡大しました。医療・健康関連では、「テクノゲル(ST-ge1)」(機能性高分子ゲル)が、低周波治療器用パッドや化粧品用パック材などで好調に推移しました。

現在、世界の自動車市場は拡大を続けており、アジアにおいても継続的な安定成長が見込まれます。また、各国の環境規制が強化されるなか、EV(電気自動車)シフトが加速すると考えられ、部材の軽量化・安全性・断熱性能向上等に寄与できる当社の素材に対する要望はますます高まっています。Sekisui Plastics (Thailand)では、9月にタイ王国東部地方に2拠点目となるラヨン工場を新設し、「ピオセラン」を始めとする発泡プラスチック成形品の生産を開始しました。同工場が稼働したことにより、既存のサラブリ工場と連携し、更なる顧客ニーズへの迅速対応と安定供給が可能となりましたので、自動車市場だけに留まらず、家電・IT関連についても積極的な拡販を進めていきます。

(2) 財政状態に関する説明

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、1,324億9千9百万円（前連結会計年度末比13億5千万円増）となりました。資産の部では、流動資産が受取手形及び売掛金の減少などにより12億7千7百万円減少し、固定資産が有形固定資産の増加などにより26億2千8百万円増加しました。負債の部では、流動負債が電子記録債務の減少などにより31億4千2百万円減少し、固定負債が長期借入金の増加などにより41億1千7百万円増加しました。純資産は、利益剰余金の増加などにより3億7千5百万円増加して665億2千1百万円となり、自己資本比率は49.7%となりました。

当第2四半期連結累計期間におけるキャッシュ・フローの状況については、営業活動によるキャッシュ・フローは、売上債権・支払債務の増減額の影響などにより、前年同期に比べ12億6千2百万円収入が増加し、23億3千2百万円の収入となりました。投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産の取得による支出の増加などにより、前年同期に比べ19億4千3百万円支出が増加し、40億9千9百万円の支出となりました。財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入れによる収入が増加したことなどにより、前年同期に比べ24億3千6百万円収入が増加し、21億4千9百万円の収入となりました。この結果、現金及び現金同等物の当第2四半期連結会計期間末残高は、前連結会計年度末に比べ4億9百万円増加し、55億2千7百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

第2四半期までの連結業績の進捗および第3四半期以降の市場環境動向等を踏まえ、2018年4月25日に公表した2019年3月期連結業績予想を変更しております。

2019年3月期通期連結業績予想数値の修正（2018年4月1日～2019年3月31日）

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に帰属する当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円
前回発表予想 (A)	120,000	6,800	6,600	4,400	97.15
今回修正予想 (B)	115,000	5,500	5,400	3,600	79.48
増減額 (B-A)	△5,000	△1,300	△1,200	△800	—
増減率	△4.2%	△19.1%	△18.2%	△18.2%	—
(参考) 前期実績 (2018年3月期)	112,101	5,284	5,154	3,448	75.33

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	5,123	5,533
受取手形及び売掛金	30,367	28,113
電子記録債権	3,001	2,758
商品及び製品	7,166	7,546
仕掛品	194	187
原材料及び貯蔵品	3,071	3,101
その他	826	1,228
貸倒引当金	△71	△68
流動資産合計	49,680	48,402
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	15,548	17,078
機械装置及び運搬具(純額)	11,330	12,625
土地	20,955	21,176
その他(純額)	6,014	5,392
有形固定資産合計	53,849	56,273
無形固定資産		
のれん	73	63
その他	963	1,025
無形固定資産合計	1,037	1,088
投資その他の資産		
投資有価証券	19,844	19,731
退職給付に係る資産	5,194	5,375
その他	1,595	1,683
貸倒引当金	△54	△55
投資その他の資産合計	26,580	26,734
固定資産合計	81,468	84,096
資産合計	131,148	132,499

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2018年3月31日)	当第2四半期連結会計期間 (2018年9月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	17,418	17,153
電子記録債務	8,530	7,137
短期借入金	12,124	11,197
未払法人税等	1,050	571
賞与引当金	1,023	974
役員賞与引当金	29	15
その他	7,294	7,279
流動負債合計	47,470	44,328
固定負債		
長期借入金	6,972	11,065
退職給付に係る負債	3,011	3,056
製品補償引当金	244	203
その他	7,302	7,324
固定負債合計	17,531	21,649
負債合計	65,002	65,977
純資産の部		
株主資本		
資本金	16,533	16,533
資本剰余金	16,544	16,532
利益剰余金	20,699	21,335
自己株式	△1,425	△1,425
株主資本合計	52,352	52,976
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	10,168	10,088
土地再評価差額金	1,479	1,479
為替換算調整勘定	235	307
退職給付に係る調整累計額	1,179	985
その他の包括利益累計額合計	13,061	12,860
非支配株主持分	731	684
純資産合計	66,145	66,521
負債純資産合計	131,148	132,499

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
 (四半期連結損益計算書)
 (第2四半期連結累計期間)

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
売上高	54,701	54,570
売上原価	41,255	41,946
売上総利益	13,446	12,624
販売費及び一般管理費	10,717	10,705
営業利益	2,728	1,918
営業外収益		
受取利息	4	2
受取配当金	152	169
為替差益	12	33
その他	56	51
営業外収益合計	225	257
営業外費用		
支払利息	77	89
持分法による投資損失	3	0
その他	140	138
営業外費用合計	221	228
経常利益	2,732	1,947
特別利益		
投資有価証券売却益	2	79
特別利益合計	2	79
特別損失		
災害による損失	—	31
投資有価証券評価損	9	—
特別損失合計	9	31
税金等調整前四半期純利益	2,725	1,995
法人税等	929	678
四半期純利益	1,796	1,316
非支配株主に帰属する四半期純利益	1	1
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,794	1,315

(四半期連結包括利益計算書)

(第2四半期連結累計期間)

(単位：百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
四半期純利益	1,796	1,316
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	1,310	△79
為替換算調整勘定	193	72
退職給付に係る調整額	△198	△193
その他の包括利益合計	1,306	△200
四半期包括利益	3,102	1,115
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,101	1,114
非支配株主に係る四半期包括利益	1	1

(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:百万円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)	当第2四半期連結累計期間 (自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	2,725	1,995
減価償却費	2,040	2,100
のれん償却額	10	10
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	0	△3
受取利息及び受取配当金	△156	△172
支払利息	77	89
持分法による投資損益 (△は益)	3	0
賞与引当金の増減額 (△は減少)	96	△49
製品補償引当金の増減額 (△は減少)	△90	△41
退職給付に係る資産負債の増減額	△164	△410
投資有価証券売却損益 (△は益)	△2	△79
投資有価証券評価損益 (△は益)	9	—
有形固定資産除売却損益 (△は益)	30	33
売上債権の増減額 (△は増加)	△4,203	2,335
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△430	△394
仕入債務の増減額 (△は減少)	1,639	△1,632
その他	△100	△539
小計	1,484	3,243
利息及び配当金の受取額	156	172
利息の支払額	△98	△109
保険金の受取額	4	2
法人税等の支払額又は還付額 (△は支払)	△477	△975
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,070	2,332
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△2,281	△4,276
有形固定資産の売却による収入	41	23
投資有価証券の取得による支出	△2	△2
投資有価証券の売却による収入	51	125
貸付けによる支出	△2	△3
貸付金の回収による収入	38	18
その他	△0	13
投資活動によるキャッシュ・フロー	△2,156	△4,099
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	120	△1,185
長期借入れによる収入	2,700	6,952
長期借入金の返済による支出	△2,383	△2,766
配当金の支払額	△550	△677
非支配株主への配当金の支払額	△0	△2
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	—	△58
その他	△171	△112
財務活動によるキャッシュ・フロー	△286	2,149
現金及び現金同等物に係る換算差額	50	26
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△1,323	409
現金及び現金同等物の期首残高	6,266	5,117
現金及び現金同等物の四半期末残高	4,943	5,527

(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(在外子会社の収益及び費用の換算方法の変更)

在外子会社の収益及び費用は、従来、決算日の直物為替相場により円貨に換算しておりましたが、第1四半期連結会計期間より期中平均相場により円貨に換算する方法に変更しております。

この変更は、近年在外子会社の収益及び費用の重要性が増しており、今後、さらに海外比重が高まることが見込まれるため、昨今の為替相場の変動を鑑み、会計期間を通じて発生する在外子会社の損益をより適切に連結財務諸表に反映させるために行ったものであります。

なお、この変更による影響額は軽微であるため、遡及適用は行っておりません。

(追加情報)

(「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」等の適用)

「『税効果会計に係る会計基準』の一部改正」(企業会計基準第28号 平成30年2月16日)等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しており、繰延税金資産は投資その他の資産の区分に表示し、繰延税金負債は固定負債の区分に表示しております。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

- I 前第2四半期連結累計期間(自 2017年4月1日 至 2017年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	32,153	22,548	54,701	—	54,701
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,913	757	2,671	△2,671	—
計	34,066	23,306	57,373	△2,671	54,701
セグメント利益	1,940	1,484	3,425	△692	2,732

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△692百万円には、セグメント間取引消去△2百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△690百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など

- II 当第2四半期連結累計期間(自 2018年4月1日 至 2018年9月30日)
報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント			調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
	生活分野	工業分野	計		
売上高					
外部顧客への売上高	31,090	23,480	54,570	—	54,570
セグメント間の内部売上高 又は振替高	1,696	684	2,381	△2,381	—
計	32,787	24,165	56,952	△2,381	54,570
セグメント利益	1,209	1,102	2,311	△364	1,947

(注) 1. 調整額は以下のとおりであります。

セグメント利益の調整額△364百万円には、セグメント間取引消去△6百万円、各報告セグメントに配分していない全社費用△357百万円が含まれております。

2. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の経常利益と調整を行っております。

3. 各セグメントに属する主要な製品の名称

- ・生活分野—— エスレンビーズ、エスレンシート、エスレンウッド、インターフォーム、
これら成形加工品、ESダンマット、エスレンブロックなど
- ・工業分野—— ピオセララン、ライトロン、ネオマイクロレン、セルペット、テクポリマー、テクノゲル、
テクヒーター、エラスティル、フォーマック、ST-LAYER、これら成形加工品など